

# TS（トータル・サティスファクション）を目指して⑩

## 「あとから来る人のために」

校長室担当より

朝の出勤後、私は運動不足解消のために校舎内外を散歩する習慣があります。その時に目の隅に入っていたのが、正門前などで、秋の風を受けて落ち葉が吹き溜まりになっている状況でした。「これだけの落ち葉は、業務員の方だけにお任せするのは無理だなあ。」と感じていたある日、ふと落ち葉の量がずいぶん減っていることに気づきました。不思議に思っていると、後になってから、ある先生が落ち葉を含めて周辺のごみ拾いを朝早くにされていたことが後になってわかりました。おかげで、落ち葉が風で子どもの目に当たったり、重なった落ち葉で彼らが足を滑らせたりすることもない、安全で気持ちの良い環境が朝のバス着の時間には整えられています。本当にありがたいことです。この先生に限らず、私が気づかないところで、もっと多くの先生方に、さらには出島管理事務所等多くの地域の方々にも清掃活動をしていただいているということに、改めて気づかされました。本当に感謝しかありません。この場をお借りして、御礼申し上げます。

このことに関連して・・・。日が暮れるのが早くなってくるこの時期、夕方 5 時半くらいになると、私は思い出すことがあります。それは、高等学校のサッカー部での放課後の練習後の後片付け風景です。選手と一緒に、暗くなる中、重さのある通称「レーキ」と言われる道具を使って土のグラウンドの整備をしていました。持ち方によっては土がうまくほぐれないので、ある程度の重さに耐えつつ人力だけで、広大なグラウンドを平らに戻すのは決して軽い仕事ではありませんでした。しかし選手たちは毎日きちんとこのグラウンド整備を、当たり前、丁寧にやってくれ、翌日の体育の授業のことも考えて防球ネットの配置も変えていました。彼らのこの行動の土台にあるものを少し考えてみます。

サッカーワールドカップロシア大会で、3 連敗の試合後でも黙々とごみを拾い集めて引き上げていった日本人サポーターが世界で絶賛されたことは、まだ記憶に残っているところです。この行動に感動して、日本に見習おうとする様々な動きが世界中に出てきています。日常生活の中でも、使ったものは元の場所に戻す、使った場所は来た時よりもきれいにして帰る、座っていた椅子はきちんと入れる、ゴミはすべて拾って持

ち帰る等の行為を当たり前に行えることは、日本人として心から誇れる部分だとも思います。先ほどの先生もそうだと思うのですが、「あとから来る人」のことを考えるということ、私たちは子どものころから身につけてきたのです。こういった行動が日本で育った人々の身に染みついているのは、無理に押し付けられた「しつけ」から生まれた行動ではなく、「あとから来る人」が自分とは無関係な人ではなく、自分と同じように気持ちよく過ごしてもらいたい人なのだと考えられるという、豊かな「想像力」の育成ができているからこそその行動だと考えています。

このような、自分には直接「見えない人を見る力」、これも「リスペクト」の精神から生まれるものであり、私たちはこれをきちんと子どもたちに伝えていく義務があります。そのためにも、私たちは今一度子どもたちのモデルになれているかどうかを、折に触れて自分たち自身に問い直す必要がありそうです。年度当初にお願いしたとおり、目指す「トータル・サティスファクションの実現」を妨げる3悪、「今さえよければいい、ここさえよければいい、自分さえよければいい」という考え方を撲滅し、すべての方と協力・連携して、いい学校をつくりましょう、一緒に。(令和3年10月27日)

#### 本校教職員として目指す方向性（確認）

※4月1日にお願いしたこと

- 1 トータル・サティスファクションの実現
- 2 学びに向かう力をもつモデルを率先垂範
- 3 対話とパートナーシップに基づく行動
- 4 全教職員で全校の児童生徒を見守るチームの実現
- 5 「今さえ、ここさえ、自分さえよければいい」の3悪の撲滅